

きいて・めもして・こたえよう

しんぶん こうざ
新聞づくり講座

なまえ
名前

聞くめあて しんぶんの「紙面の組み立て」と、「見出しのくふう」を、分けてメモしましょう。

おとさない言葉：紙面の組み立て・見出しの技

放送が終わったら、聞いて問題に答えましょう。

(1) しんぶんでは、大切な記事ほど、どこにのせますか。

(2) 記事に、写真や図を入れると、どうなると言っていましたか。

(3) 見出しのくふうとして、正しいものはどれですか。○をつけましょう。

ア みじかく、いちばん伝えたいことを書く

イ できるだけ長い文で書く

ウ 記事と関係ないことを書く

(4) 記事を書くときにはつきりさせる「五つのW」に、ないものはどれですか。○をつけましょう。

ア いつ・どこで

イ だれが・何を・どうした

ウ いくらで

(5) しんぶんづくりについて、聞いてみたいことを「しつもの文」で一つ書きましょう。

すすめ方

- ① 中央の点線で山折りにして、「めも」の面だけを表にする（問題を先に見せない）。
- ② この放送文を先生が読む（または用意した音声を流す）。読む回数：1回。聞きながらメモを取らせる。
- ③ 放送が終わったらプリントを開き、メモを見ながら問題に答えさせる。

放送文

今日は、しんぶんづくりの、こつを、しょうかいします。国語の、時間に、みんなで、クラスしんぶんを、作ります。読む人に、分かりやすく、つたえるには、「紙面の、組み立て」と、「見出しの、くふう」が、大切です。

まず、紙面の、組み立てです。しんぶんは、大切な、記事ほど、上や、右に、大きく、のせます。読む人は、右上から、読み始めるからです。写真や、図を、入れると、記事の、内容が、ひと目で、分かりやすく、なります。

つぎに、見出しの、くふうです。見出しは、記事の、内容を、みじかい、言葉で、あらわす、かんばんです。「運動会が、ありました」ではなく、「赤組、ぎゃくてん、ゆうしょう」のように、短く、そして、いちばん、伝えたいことを、書くと、読む人の、心を、つかめます。

記事を、書くときは、「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どうした」を、はっきり、させることが、大切です。この、五つが、そろっていると、読む人に、正しく、できごとが、つたわります。これを、「五つのW」と、よぶことも、あります。

紙面の、組み立てと、見出しの、くふうを、生かして、読む人が、思わず、読みたくなる、すてきな、クラスしんぶんを、作りましょう。

メモのれい

新聞づくり講座（紙面の組み立てと見出しの技）

紙面：大切な記事ほど上・右に大きく（右上から読む）／写真・図でひと目で分かる

見出し：記事の内容をみじかい言葉で＝かんばん／いちばん伝えたいことを短く

記事：いつ・どこで・だれが・何を・どうした（五つのW）をはっきり

こたえと かいせつ

(1) 上や右に、大きくのせる

「大切な、記事ほど、上や、右に、大きく、のせます」と言っていました。読む人は右上から読むからです。

(2) 記事の内容が、ひと目で分かりやすくなる

「写真や、図を、入れると、記事の、内容が、ひと目で、分かりやすく、なります」と言っていました。

(3) ア（みじかく、いちばん伝えたいことを書く）

「短く、そして、いちばん、伝えたいことを、書く」と言っていました。

(4) ウ（いくらで）

五つのWは「いつ・どこで・だれが・何を・どうした」でした。「いくらで」は入りません。

(5) (例) 見出しは、どうやって考えますか。／写真は、どこにのせるとよいですか。

しんぶんづくりに関係する「たずねる文（～ですか。）」になっていれば正解です。